

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和（３）年度 じどう車くらべ
授業について	教科名等	☒ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 特別の教科 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☐ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他(生活・身辺自立・行動の切り替え)
	単元・題材名	じどう車くらべ
	授業の目標	教科書の挿絵も手がかりに教科書を読み、トラックのしごとやつくりについてわかったことを話し合う。
	学力の3要素	☒ 「知識及び技能」 ☒ 「思考力・判断力・表現力等」 ☒ 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☒ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生以降 ☐ 特定されない (1) 年 (4) 人
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☒ 聴覚障害 ☐ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
	子供の困難さ	☐ 見ること ☒ 聞くこと ☐ 話すこと ☐ 読むこと ☐ 書くこと ☐ 動くこと ☒ コミュニケーションをすること ☐ 気持ちを表現すること ☐ 落ち着くこと・集中すること ☐ 概念(時間、大きさ等)を理解すること ☐ 学習(計算、推論等)すること ☐ その他 ・話している人と視覚的な手がかりが同時に確認できないと、お互いの話していることを理解したり、お互いの考えを共有したりするのが難しいことがある。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(☐ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(☒ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C学習支援(☒ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援) D実態把握支援(☐ D1実態把握支援) ・前時に扱ったことなども提示することができ、前時の活動と結び付け活動に見通しが持ちやすくなると考えられる。 ・大型モニターに全員が見えるように教科書の内容を提示することで、音読をするときや、教科書に書かれていることを確認する際に、教師の話している様子と教科書に書かれていることの両方を同時に確認することができる。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	・iPad(国語 デジタル教科書) ・大型テレビ
授業展開	授業展開・支援の手立て	・前時にデジタル教科書上で、乗用車やバスの「しごと」、「つくり」が書かれた文に色分けし線を引いた。本時の導入で前時の活動を振り返る働きかけを行いながらそのページも提示し、本時の活動にも見通しを持つことができるようにした。 ・教科書の文を読む前にトラックの挿絵だけを大型テレビに提示し、トラックを見て気づいたことやトラックの「しごと」や「つくり」とはどんなものか挿絵を見て考えたことを自由に話す場面を設定した。 ・トラックの「しごと」や「つくり」について自分の考えを挿絵をもとに自由にやり取りした後、教科書にはどのように書かれているのか確かめる活動につなげた。その場面で、トラックの「しごと」や「つくり」について書かれた教科書の文を大型テレビに映し、どこを読んでいるか全員で確認しながら、音読をした。 ・トラックの「しごと」とはどんなことか、しごとをするためにどんな「つくり」になっているのかを、確認した。その際、大型テレビには教科書の本文を映しておいた。何を答えればよいかわからなかった様子があったので、前時に扱ったページを再度見せ、確認した。前時の活動を思い出し、本文をもう一度読み、答えようとする様子が見られた。「しごと」が本文で確認できたところで再度挿絵を映し、本文にかかれている「しごと」を絵の中で確認した。本文の「つくり」について書かれた文に前時と同じ色で線を引いた。 ・「つくり」についても「しごと」についてと同様に前時の活動を振り返りながら、「つくり」について書かれた文を確認した。トラックのどの部分のことか、何のためにこのような「つくり」になっているのかを大型テレビの挿絵を見ながら確認し、本文にも前時と同じ色で「つくり」に線を引いた。 ・児童同士がお互いに話している内容を理解してやりとりすることができるよう、挿絵を映した大型テレビの隣で発言するようにし、児童全員がトラックの車体の同じ部分を見ながらズレがなくやりとりできるようにした。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・前時に使用した形で保存しておき、再度提示することで、その時のことを思い出すことができ、本時の活動にも見通しが持て、スムーズに活動を進めることができた。 ・大型テレビに視覚教材を提示することで、提示されたものについて児童全員が積極的に話そうとする様子が見られた。